

令和3年10月28日「地域福祉推進会議」議事要録		
開催日時	令和3年10月28日(木) 午後1時30分から午後2時50分まで	
開催場所	奈良市役所北棟2階203会議室	
議題	地域福祉推進会議	
出席者	委員	作間委員、安藤委員、森山委員、安井委員、木村委員、田中委員、松村委員、今西委員、山下委員、國分委員 【委員13名中10名出席】
	事務局	【福祉部】福祉部長、福祉部次長、福祉政策課長、課長補佐、係長、係員 【奈良市社会福祉協議会】7名
開催形態	公開(傍聴3名)	
担当課	福祉部福祉政策課	
議事・決定事項		
1 開会・あいさつ 2 委員紹介 3 議題 (1) 委員長・副委員長の推薦について 委員長に山下委員を選出し、今西委員を副委員長とした。 (2) 第4次地域福祉計画・第3次地域福祉活動計画(案)について 4 その他		
〔質疑・意見の要旨〕		
・地域活動者の高齢化によるサロンの担い手不足が深刻である。コロナ禍の影響でサロンが一度休止したら次に再開が困難なため、どうしたら再開できるのかを模索している状況。再開までの間参加者の安否確認のため連絡先など個人情報を取り扱うようになったが、トラブルも考えられるため取り扱いが非常に困難である。自分の地区では、NPO法人化し契約という方法で運用している。		
・地域福祉を発展させるためには小さな課題を見落とさず、タイムリーにアクションを起こすことが大事だと思う。個人の問題を地域の課題として取り扱うという共通認識が必要である。		
・ボランティア協議会では支援金の作成やチャリティーバザーを実施するなどして生活困窮者の支援を行っている。コロナ禍という活動が制限される中だが、なにもできないではなく、自分たちでもできることがあると感じている。		
・(みまもり支援について) 地域でよりそう(伴走する)個人の活動だけに頼らず、ある程度の調整機能があり協力できる複数の人間が仲間として存在できるような団体や専門職が核となることが地域にとって良いのではないかと。また、まずは挨拶ができる地域づくりを進めていくことで人との関わりが作られていき、人が見えてくるのではないかと。		

<ul style="list-style-type: none"> 暮らしを地域で取り持つという観点を共有することで、社協が取り組むミッションの原点である組織化に繋がる。社協は単なる事業体ではなく協議体であり、暮らしのレベルを上げていこうという運動体なので、事業を行うだけではなく参加協力を仰ぎながら進めていかないといけない。
<ul style="list-style-type: none"> 地域で全戸アンケートを実施し分析した結果「挨拶する町にしよう」という結論に至った。挨拶できる、お互いの顔が見える地域を目指して活動中である。民生委員の訪問活動はコロナ禍の影響で通常よりは減っているものの、まめに連絡をすることで地域の方のコロナ禍による不安解消の援助が出来ている実感があり、地道な訪問活動の大切さを改めて感じている。その活動の中で拾い上げたものを社協や地域包括支援センターに繋げていく中で、民生委員として地域でどのように活動していくかを話し合っている。
<ul style="list-style-type: none"> 自分から声を出せない方に手を差し伸べ、またその方が助けを求めるためには、地域とのつながりをどのように作るのか、どのように個人の問題を地域の問題として考えて見える化するかが課題だと思う。地域の中で暮らしている実感を持つためには地域への愛着が必要であり、そのためには人とのつながりや信頼、仕組みなどが必要になるので、それらをどのように構築していくかを考えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 介護保険で取り組んできた地域包括ケアシステムを障害分野でも活用していけたら良いのではないかと。これまで権利擁護センターや基幹型地域包括支援センターの設置など基盤が確立してきたが、依然として場所の確保や拠点整備、専門職が必要だ。
<ul style="list-style-type: none"> 若い人が奈良で地域の活動をするにはエネルギー（愛着）がないと厳しい。地域でも若者の参加が少なく、自治会にも参加していないため、個の力が落ちてきていると感じる。 医師会では医療と福祉の連携に取り組んでおり、在宅で困っている方をフォローアップするセンター（在宅医療・介護連携支援センター）を受託し、連携している。 日本には、介護や福祉において家族の労働はタダだが、ホームヘルパーになって隣人同士で介護しあうと点数がつくなど、人材に対しての財源的なものの考え方が欠けていると感じる。ボランティアや好意だけに期待するのではなく、人材に対するソフト面での財政的支援に、将来的に取り組んで頂きたい。
<ul style="list-style-type: none"> 現在自治会では、長寿命化（超高齢化）による地域活動や地域コミュニティへの無関心、高齢者の一人暮らしや孤独死の増加が問題になっている。防災と福祉は大きな関心事。福祉は幅が広く、奥が深く、課題も多い。そういった福祉面のサポートをしていくために、福祉（地区社協など）の財源の改善が必要ではないか。
<ul style="list-style-type: none"> コロナで様々なつながりが切れていたというところで、つながりを断ち切らない、どう取り戻すかというところを今回の計画にぜひ盛り込んでいきたいと思っている。